

～患者さんを“痛み”から解放するために～ ペインクリニックの役割



どのような痛みであっても、そのストレスは心身に少なからず不調をもたらし、生活の質（QOL）を低下させます。そこで鎮痛・除痛の必要性について、大分大学医学部麻酔科学講座の松本重清先生（診療科長）と、山本俊介先生（病棟医長）の二人に、ペインクリニックの役割を含めてお聞きしました。

早期離床につながる 手術後の疼痛管理

松本 麻酔科医の役割のひとつに、「痛みのコントロール」があります。中でも重要視されているのが、手術後の疼痛管理です。痛みをそのままにすると、合併症のリスクが高まります。例えば痛みが強いと、咳をして痰（たん）を出せず、肺炎を引き起こしやすくなります。痛みによって血圧が上昇したり、心拍数



大分大学医学部 麻酔科学講座
診療科長
松本 重清 先生



大分大学医学部 麻酔科学講座
病棟医長
山本 俊介 先生

が増加したりすると、心臓にも負担がかかります。さらに在院日数が長期化すれば、医療費がかさむことにもなります。

痛みの緩和には、鎮痛薬や神経ブロックが用いられます。神経ブロックは手術の際の麻酔技術を応用したもので、痛みの原因になっている神経に局所麻酔

薬を注入して、痛みが伝わる経路をブロックする方法です。近年は超音波（エコー）のガイド下で行われるようになり、安全性と有効性が高まっています。

神経ブロックなどで 様々なタイプの痛みに対応

山本 ペインクリニックは、痛みの診断と治療を専門とする診療科です。首・肩こり、腰痛、神経痛など、あらゆる痛みを対象としています。「帯状疱疹後神経痛（たいじょうほうしんごしんけいつう）」もそのひとつです。帯状疱疹の皮膚症状が治まった後も続くピリピリ・チリチリとした痛みで、脇腹などの体幹部に頻出します。

また、腰椎椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症など、脊椎疾患に由来する慢性疼痛もペインクリニックの重要な対象です。ペインクリニックが得意とする神経ブロックや薬物療法などを組み合わせ、手術以外の選択肢を提供します。

痛みは長期化するほど、治療抵抗性が生じます。身体の痛みは、心の状態と密接に関わっているともいわれています。痛みが慢性化してしまう前に、適切な治療を受けることが重要です。

痛みは心身のSOS 「我慢は禁物」

山本 身体の痛みには、必ず原因があります。長引く腰痛などを「年齢のせい」と軽視してそのまま放置していると、思いがけない重大な疾患（レッドフラッグ）が隠れている可能性もあるため、注意が必要です。

松本 つらい痛みを抱えて動かないでいると、筋肉量が減りさらに動けなくなります。その様な状態が続くと、動かないので食欲低下、低栄養となり、そして痛みに対する不安や恐怖による睡眠障害やうつ、バランス低下による転倒・骨折を起こしやすくなります。痛みを我慢するのは禁物です。痛みは自分にしかわからないので、我慢せずに必ずお伝えください。